

外国人児童生徒の教科等の学習を支援する取組例

外国人児童生徒の教科等の学習を支援する取組例

① おはようカードの活用

一日の学校生活の流れを児童につかませるために、おはようカードを活用している。前日書いた連絡帳をもとに、日本語指導等の今日の予定についてや、友達と遊んだこと等の昨日の出来事について、児童が毎朝記入している。

※ 鈴鹿市立桜島小学校作成のおはようカード P 7 2

② 校内の学習環境の整備

校内の教室の場所や教科名等がよくわかるように、多言語での教室名の表示や校内の地図、予定黒板の表示、教科書に貼るシール等を作成・活用している。

※ 四日市市初期適応指導教室「いずみ」作成の教科名一覧表 P 7 3

③ 取り出し指導等をおこなう場と在籍学級をつなぐ連絡カードの活用

当該児童生徒の指導を効果的・継続的に行うために、取り出し指導等を行う担当者と当該児童生徒が在籍する学級担任とが、連絡ノートを活用している。

※ 伊賀市立上野東小学校作成の連絡ノート P 7 4

④ 学級を安心して学習できる場にするための指導

在籍学級が当該児童生徒にとって安心して学習できる場になるように、学級経営に取り組んでいる。周りの児童生徒が、日本語で学ぶ大変さを分かたり、互いのちがいやよさを認め合ったりすることで、学級内の人間関係が豊かになり楽しい経験もできる。

※ 津市立白塚小学校での取組「母語は親子をつなぐ大切な言葉」 P 7 5

※ 津市立千里ヶ丘小学校での取組「支える子どもたち」 P 7 6

⑤ 保護者による宿題サポート

子どもの学習への保護者からの支援を促すためにも、家庭学習への手だてを工夫して、子どもの宿題を見たり聞いたりしてもらおうよう保護者に伝える。例えば、宿題として出された音読を子どもから聞くことで、日本語が読めない保護者も子どもの教科書をローマ字で読めるようになる。

※ 鈴鹿市立桜島小学校、四日市市立笹川東小学校作成の音読カード P 7 7～7 8

※ 鈴鹿市立桜島小学校、伊賀市立上野東小学校作成の九九カード、九九プリント
P 7 9～8 1